

都道府県立図書館の DX取り組み状況調査

2025年9月7日（日）

Code4LibJAPANカンファレンス2025

子安 伸枝

自己紹介とお断り

- ・公立図書館の司書です。
- ・本発表は所属組織とは一切関係ございません。
- ・個人的な興味関心による研究活動です。
- ・考察等は個人的な見解です。何らかの組織等を代表する見解ではありません。

問題意識Ⅰ

- ・新型コロナウイルス感染症の流行が始まった2020年以降、全国の図書館では手続き等のオンライン化や非来館でも利用可能なサービスの導入に取り組んできた。以降、行政手続きのデジタルファーストや読書バリアフリーの観点などから、図書館サービスについてもDX化の流れが続いている。

みんなどういう取り組みをしてるのか気になる！

問題意識2

- ・なぜ「都道府県立図書館」を比較？

規模感は違っても、共通の役割を担っている
図書館であるので比較しやすい
一番興味がある

類似調査・先行研究 Ⅰ

- **saveMLAK COVID-19 Survey**

休館調査と並行して、図書館のさまざまな活動を記録。新型コロナウイルス感染症流行期には、オンラインイベント等の非接触・非対面のサービス等の活動が行われていた。

- **国立国会図書館調査研究リポート「公立図書館における新型コロナウイルス感染症(COVID-19)への対応」**

<https://current.ndl.go.jp/report/no19>

類似調査・先行研究 2

- ・全国公共図書館協議会「2024年度（令和6年度）公立図書館における電子図書館サービスに関する実態調査報告書」

<https://www.library.metro.tokyo.lg.jp/zenkoutou/report/2024/index.html>

公立図書館の電子書籍やデジタルアーカイブに関する詳細な調査。

類似調査・先行研究 3

・CA2080 - 動向レビュー：日本の公共図書館における地域資料のデジタル化及びデジタルアーカイブ構築の現状 / 岡本常将

2025年3月20日公開

<https://current.ndl.go.jp/ca2080>

「2024年12月の段階では全ての都道府県立図書館が何らかの形でDAを構築済み」

類似調査・先行研究 4

- ・電子出版制作・流通協議会「電子図書館（電子書籍サービス）導入図書館（2025年07月01日）」

https://aebs.or.jp/archives/001/202507/Electronic_Library_20250701.pdf
(2025-08-25 最終確認)

都道府県導入率 30/47 63.8%

疑問

- ・電子書籍サービスや、デジタルアーカイブの導入状況はそれぞれ調査があるので、それ以外の取り組みは何があるのだろうか？

何を図書館のDXと定義するか

コンテンツに行き着くまでの過程にある様式や手段、要件の変革

コンテンツの
変革

電子書籍, デジタルアーカイブ, 動画, オープンデータ, テキストデータ, 索引

調査方法

- ・47都道府県立図書館のウェブサイトのお知らせ・利用案内を目視で確認
- ・最新の要覧(年報)を目視で確認
- ・DXに該当しそうな活動を記録, 一覧にする
- ・デジタルアーカイブは名称とURLの記録に留める
- ・電子書籍サービスは利用案内ページの記録に留める
- ・すでに普及している手段(OPACやメールレファレンス)などは一旦除外した

なぜ「目視」？

- 利用者がウェブサイトを見るつもりで探す
- 大規模な質問紙調査なら、公的な機関がやればよい

調査の限界

- ・バックオフィスのDXは見えにくい（記述されにくい）→要覧に載るのはという期待はあった
- ・同じサービスでも館によって記述に揺れがある
ゆえの探しにくさ
- ・利用案内やお知らせは「DX」でまとめて記述されることはないので、見落としは必ず発生する

調査結果

- ・全都道府県立図書館の要覧（年報・事業概要）がオンラインでアクセス可能になっていた
- ・どの館もやっているといえる活動はそんなに多くなかった
- ・広く浅くの印象。大掛かりな変更はシステム更新の時期に起きやすい？
- ・調査データまとめ→<https://00m.in/mtIGH>

過程の変革	コンテンツの変革
オンライン利用登録(35) パスワード発行(25) 利用者番号バーコード表示(8) 購入リクエスト(4) 複写サービス(14) 座席予約(4) 対面朗読・手話通訳(10) 申請書(6) チャットボット(3) AI(主に蔵書探索)(4) そのほか検索の手段(8) 資料収集(2) オンライン研修(33) オンライン会議(13) オンラインイベント(11)	動画配信(19) オープンデータ(4) 電子書籍(31) デジタルアーカイブ(47)

調査の感想

- ・研修や講座の動画は適切にアーカイブしたり公開することでひとつのコンテンツになる
- ・以前に類似の調査を頑張ったのは1人じゃなかつたからでした。もしもう一度やるならもっと簡単な方法を考えたい。

おまけ・SNS活用

- Facebook 22館
- Instagram 16館
- X(旧Twitter) 34館
- YouTube 20館
- その他(ブログやnote, メルマガ) 13館

ご清聴ありがとうございました